

大雪山国立公園連絡協議会登山道維持管理部会（第5回）

表大雪地域/東大雪地域合同会議 議事録

日 時：令和5年6月20日（火）14：00～17：00

場 所：上川町役場大会議室（オンライン併用）

出席者：出席者名簿参照 ※以下、変更箇所。

上川総合振興局 木幡氏が欠席、上川町 合佐昆氏→内海氏、合同会社北海道山岳整備／一般社団法人大雪山・山守隊 岡崎代表社員が欠席）

1. 開会

■司会 一齋藤

- ・ 定刻となったので、令和5年度大雪山国立公園連絡協議会 表大雪/東大雪地域合同登山道維持管理部会（第5回）を始める。当方は、今回司会を務める齋藤である。開会にあたり、事務局を代表して大雪山国立公園管理事務所長の広野よりご挨拶申し上げる。

■大雪山国立公園管理事務所長 広野

- ・ 開山時期のお忙しい中、多数の方に出席いただき御礼申し上げます。
- ・ 今回は昨年に引き続き表大雪地域・東大雪地域合同での開催となる。これまで第1～4回部会を通じて、登山道の荒廃の解決に向けた議論をしつつ、登山道の管理者と維持管理者との連携協力、協力金の大雪山全体への展開の考え方、継続的な維持管理体制の構築について共通認識が持てるように議論を進めてきた。
- ・ 前回は特に協力金の活用方法についても議論を進めたところだが、今回はこれまでの議論を踏まえながら、改めて協働型管理運営のあり方について共通認識を持って進めていきたい。
- ・ また今回は、前回議論の時間が十分でなかった大雪山の保全ルールについても案を作成している。有意義な会議となるよう建設的なご議論をお願いしたい。

■事務局

- ・ 出席者について、名簿をもって紹介に代えさせていただくが、名簿から変更があった方をご紹介します。上川総合振興局 木幡氏が欠席、上川町 合佐昆氏が欠席となり内海氏が出席、合同会社北海道山岳整備／一般社団法人大雪山・山守隊 岡崎代表社員が欠席。資料は配付資料一覧の通り。今回もオンラインを併用している。会場参加者と同じようにご発言いただきたい。それでは議事に入る。

※議事録の記述において、発言者の敬称・肩書等は省略での記載とした。

2. 議事

(1) 登山道等の協働型管理の進め方について

…資料1、資料1別添、資料1別紙について事務局・広野より説明。

■司会 一齋藤

- ・ 議事の1について、事務局より説明願う。

■事務局 一広野

- ・ 資料1、資料1別添についてご説明する。※詳細説明は省略。
 - これまでの登山道維持管理部会等の開催経過や、大雪山国立公園における登山道の管理状況（事業執行や再整備・維持管理状況）について共有。
 - 登山道等の協働型管理の進め方について、案を提示。
- ・ 別紙については現時点での整理となっており、今後必要に応じて適宜修正する。

■司会 一齋藤

- ・ 会場及びオンラインから質問ご意見あるか。

■山岳リクリエーション管理研究会 山口事務局長 ※以後肩書き省略

- ・ 3点ある。1つ目は、事務局にはお願いしているところであるが、管理運営計画最終版を提示して欲しい。2つ目は、登山道協働型管理を進めるには、PDCAサイクルを確実に回すというのが一番重要かと思う。3つ目は、管理水準や技術指針の見直しについては当分必要ないと思う。PDCAを回していないのに、単純に10年経ったから改訂する、というのはどうかと思う。確かに足りないところや付け加えるべきところはあるかもしれないが、PDCAがきちんと回っていれば今の管理水準と技術指針で当面は十分かと思う。

■事務局 一広野

- ・ 管理運営計画については、現在本省で確認中である。管理水準等の見直しについては事務局としても今すぐにやろうとは思っていない。補修結果の蓄積から水準の見直しが必要だという時点で見直せればと思う。

■北海道大学大学院地球環境科学研究院 渡邊教授 ※以後肩書き省略

- ・ （資料1別添について、）協働管理の進め方をビジョンと対応させていただき感謝。大枠は良いと思う。ただ、(1)(2)の「⇒」の記載について、現在のレベル・グレードで本当に今のままでいいのか、という疑問がある。どこかでコンセンサスを取る必要があるのではと思っている。
- ・ 管理水準の見直しに繋がるのかとも思うが、山口氏の言うようにPDCAを回して、検証して行くのが良いのか、もう一度勉強し直した方が良いのか、いずれにしてもこのままの前提で進むのはいかがかなと感じている。

■山口

- ・ この表は間違っていないか。ビジョンは（１）～（４）までであるが、（４）が抜けているのではないか。

■事務局 一広野

- ・ この資料の表現としては、（４）のビジョンはあえて入れなかった。（４）はその下の協働型管理によるビジョンの実現の表に表したつもりだった。

■山口

- ・ 承知した。ただ、この書き方だと誤解が生じる。自分はビジョンなど既存の計画をスタート地点として確認しつつ発言しているので、事務局としても一つ一つきちんと記載してもらいたい。

■事務局 一広野

- ・ ご意見を踏まえ、今後本資料を使用する際は反映したい。
- ・ 渡邊氏のご発言についてであるが、もちろん大雪山グレードに応じた必要な補修を考えていくというのが基本かと思う。また、どこまで手を入れていくのかという個別の具体的な議論は登山道維持管理部会の技術検討会でやっていくものだと思う。これが山口氏のおっしゃっていたPDCA サイクルの実際の部分になるかと思う。歩道の一覧ということで全体をお示ししたが、路線の中でもタイプが異なるものがあったり、複数のグレードがあったり、その辺りは複数の歩道管理者に確認しつつ進めていく必要があるかと思っている。

■渡邊

- ・ 承知した。本整理は完成形ではなくスタートだと思う。別添には（４）を記載するなり、表現を工夫していただき、今後、いろいろな取組を進める際には、この整理内容を毎回皆さんで再確認して進めるのがよいかと思う。これをしっかりとやりましょうということを議事録の中にも書いていただくようお願いしたい。

■山口

- ・ 別添の（４）の記載について、事務局の事情で記載しなかったということは承知した。その他の記載内容については特に異論はない。とにかく、PDCA サイクルを回すことが大事ということが言いたかった。

■司会 一齋藤

- ・ 他にいかがか。ないようなので、次の議題に進むこととする。

(2) 登山道等管理に関する個別調整案件について

…資料 2-1、2-2 に基づき、事務局及び上川総合振興局より説明。

■司会 一齋藤

- ・ 議事の 1 について、事務局より説明願う。

■事務局 一広野

- ・ まず、資料 2-1 についてご説明する。※詳細説明は省略
 - これまで登山道維持管理部会の位置づけが不明確であったことから、設置要綱（案）を提示。

■司会 一齋藤

- ・ ご意見ご質問あるか。

■上川町 畠山係長 ※以後肩書き省略

- ・ 要綱案の目的の第 1 条の 1 行目について、「大雪山国立公園連絡協議会東大雪登山道維持管理部会及び…」となっているが、「表」の間違いであるか。

■事務局 一広野

- ・ ご指摘の通り、こちらのミスであり、「大雪山国立公園連絡協議会表大雪登山道維持管理部会及び…」が正しい。

■層雲峡ビジターセンター 佐久間インタープリター ※以後肩書き省略

- ・ 第 3 条の構成の第 2 項について、「構成員は、…事務局が指名する。」という表現があり、これをそのまま読むと事務局の都合の良い人を一方的に指名するというように読めるが、当然、指名に当たっては、部会等に意見を聞いたりするのか。

■事務局 一広野

- ・ 過去議論の経緯から、検討員は案件の必要に応じて絞った方が良好だろうということで、このような書き方になっている。例えば、登山道の管理者が複数人いる場合もあり、対象路線によっては、関係性の薄い管理者に必ず出席いただく必要は少ないだろうという趣旨である。

■佐久間

- ・ 意図は分かった。ただ、昨年度も法令に触れるような事例もあつたりするので、自然保護団体のような、（自然保護の視点で）ブレーキをかけられるような方達も呼べるのか。

■事務局 一広野

- ・ 直接「自然保護団体」ということは書いていないが、検討する上でその視点での専門性が欠かせないということであれば、柔軟に考えていきたい。

■佐久間

- ・ 一番問題になるのは、植生が壊されるような、現状の変更が予知されるようなときは、学識経験者の中に生態系に詳しい方を入れていただきたい。

■事務局 一広野

- ・ 必要になった際には、オブザーバーになっていただくなどとして、専門家のご意見が聞けるような体制で運用したい。

■NPO アース・ウィンド 横須賀代表 ※以後肩書き省略

- ・ 検討会は必要だと思うが、その規模、いつからいつくらいまでに何回開催されるのか、また、検討会で決まったことが現場でうまく行かなかった場合に、もう一度検討会に諮るのか。現場判断でどこまでやっていいのか、お聞きしたい。

■事務局 一広野

- ・ 検討会の趣旨としては、その年に施工が完了したものを共有し、その結果に基づいてよりよい施工方法を検討するというものになっているため、開催頻度については、基本的に、年シーズン後で1回を考えている。ただ、おっしゃるように、施工前に実施の必要があることもあろうかと思うので、必要に応じて開催したい。

■横須賀

- ・ 承知した。

■Asahidake trail keeper 藤代表 ※以後肩書き省略

- ・ 過去に検討会に参加した感想を踏まえて意見がある。参加者は絞られていても良いかと思うが、検討会がもう少し開かれたものになればいいと思う。理由としては、登山道補修をやっている検討会に参加していない方達も聞いておいた方がいい内容もあるだろうし、今後新たに補修に参加したい方の参考になるのではと思うし、外部のいろんな専門家の意見を聞いてみたいと思うことが多いためである。

■事務局 一齋藤

- ・ 昨年度に開催した検討会も、会議オブザーバー参加については誰でも参画できるオープンな場になっていた。また、検討会後の議事録も、公開となっている。
- ・ 今後も開かれた会議として、多くの方の参考になる場として開催していきたい。

■藤

- ・ 議事録を見ることができるのは知っているが、録音や録画などが公開されるといいなと思う。議事録は綺麗にまとめられていて分かりやすいが、発言の温度感等分からないこともある。

■山口

- ・ 専門家を呼ぶことについては、登山道技術指針を理解している専門家であってほしいと思う。技術指針が我々の登山道整備の原点であり、これを理解している方に、検討会に参加していただきたい。

■事務局 一広野

- ・ 我々としても、そのような方に検討会に参画していただきたいと考えている。

■大雪山国立公園パークボランティア連絡会 垣内会長 ※以後肩書き省略

- ・ 先ほど、検討会の開催頻度について話にあったが、年1回はやるということを明記したほうが良いのでは。

■事務局 一広野

- ・ 記憶が確かではないが、大連協の総会資料において、今年度も開催することになっており、総会資料の記載で担保されていると考えている。

■垣内

- ・ 言いたいことは分かるが、より詳細な決め事をする要項なので、記載したほうが良いと思う。事務局もそのほうが運用しやすいのでは。

■事務局 一広野

- ・ 回数を決めてしまうと、逆にそれに縛られてしまう恐れもあると考える。

■垣内

- ・ 最低、ということだけでも要項に書いておけないのか。聞きたいが、開催しない、という選択肢があるのか。

■事務局 一広野

- ・ 今の課題がある状況で検討会を開催しない、という選択肢は考えられない。

■垣内

- ・ 異動などで担当者が変わることもあるだろうと思うので懸念している。まあしっかりと開催していただけるのならよい。

■司会 一齋藤

- ・ 他にあるか。

■藤

- ・ 先ほどの山口氏の発言についてだが、技術指針が全て、という運用は怖いなと思った。技術指針は完璧なものではないという認識で、((1) 登山道等の協働型管理の進め方について
- ・ の議題中で) 技術指針についても PDCA サイクルを回すという話だったはずなので、それであれば良いと思うが、そのうち作り直した方がいいと思っている。今の技術指針には見落とされている視点がいくつかあるのではと考えている。例えば植物に関してや土質力学など。そういう視点での意見を検討会で聞いてみたい。そうした意見を参考にするくらいはいいのではと思う。

■山口

- ・ これは管理者の判断ではあるが、私はやはり技術指針が第一かと思う。技術指針に基づかず思いつきでやる方もいて、そのやり方を見るとやはりダメな施工となっている。確かに今の技術指針は最低限のものしか書いてないし、完璧なものではないが、最低限植生を守るのに必要なことは書いてある。これをないがしろにしては前に進まないと思う。もちろん将来的には、PDCA サイクルで、必要なものを付け足していくのはあると思うが、今、基本的なものすら守られていない。私は、藤さんの施工についても、技術指針に書いてないことを思いつきでやっていると感じている。

■藤

- ・ 私は、技術指針に書いてあることは普通にやっている。それと同時に、自分が思う必要なことを進めている。それは、適当にやっているわけではなくて、技術指針に書いてある考え方を基に進めている。適当にやっているのではない。

■山口

- ・ おっしゃることは分かるが、しかし自己解釈でやるべきものではなくて、私は、大雪山でやりましようとなっている基本的なことをまず進めて行くのがいいと思っている。技術指針を基に 응용でやっていると言われたら、なんでもアリになってしまう。ただ、管理者判断で“その応用でいい”となれば、それはそれで良いとは思う。

■藤

- ・ 私もそう思う（基本的な技術指針に基づき整備を進めていくことには同意する）が、それだけをやっていたら何も前に進んでいかないと思う。仮に、技術指針に書いてあることが間違っていた場合どうするのか。

■山口

- ・ まず、技術指針には間違っことは書いてない。足りないところはあるが、これを守っていれば、間違っ施工にはならない。これは確かである。

■藤

- ・ その「確か」というのが危険だと思う。

■山口

- ・ それは将来的に見直せばいいし、管理者が判断すればいいと思う。

■藤

- ・ 見直しについて管理者が判断するのは同感であるが、個人的には、今の技術指針に基づいて施工している現場であっても、良くない施工があるな、と思っている。

■事務局 一広野

- ・ 事務局としては、技術指針というものを、過去に大雪山全体で決めているので、まずはこれを守ることは基本かと思う。それ以外のことも試してみたいとかの施工案があれば、それは管理者と調整し検討会にて議論していければと思う。

■山口

- ・ 同感である。

■横須賀

- ・ 検討会に入る人間がどなたかが分からないから言うが、専門家が本当に必要だと思う。雪融けで水が流れることで簡単に登山道が崩落していく。常にそういう仕事に従事している方を検討会に入れていただきたい。ガイドをしている際にも見たことがあるが、一晩で1m掘れてしまう、ということがあり得る。大雪山に限らず利尻でも同じだった。
- ・ 山岳整備の岡崎さんは、専門家から指導を受けて整備できるようになったと聞いているが、そういう師匠になるような方を一人、検討会に呼んでいただきたい。

■横須賀

- ・ 一つ言い忘れた。
- ・ 私は施工をしている現場をよく見かけることがあるが、施工に慣れている方以外の方が施工に従事していることがある。そういう方達は、技術的にその場の地形や植生に対してどうすべきか学んでいるわけではないので（植生保護の知識が乏しい）、植生保護ロープをズラしてしまったり、植生に配慮しない施工をしていることが多い。以前、こうした実態について、写真を添えて環境省に報告したこともある。工事に関して手伝いたい人が無数にいるかと思うが、できれば、施工技術に関して知識がない方が従事するというのがないように、検討会の中でもおさえていただければと思う。

■司会 一齋藤

- ・ 他にあるか。

■北海道上川総合振興局 中島主査 ※以後肩書き省略

- ・ 検討事項の登山道補修計画を事前にこの方法でいいのかと諮ることについて、小さい案件でも諮るのか。どういう場合に諮るのか、お考えがあれば聞きたい。

■事務局 一広野

- ・ 考え方については、今までの検討会のなかで「補修マニュアル」というものを基に検討されているが、初めて行う施工方法であるとか、初めてではないけれど施工にあたりもろもろの確認が必要だと判断した案件などがこれまで事前に諮られているものと思う。大多数の案件については、事後報告となっている。どのような場合に諮るのかについては、柔軟に考えていきたいと思う。

■中島

- ・ 承知した。

■司会 一齋藤

- ・ 他にあるか。もしなければ資料2-2に進みたいと思う。北海道上川総合振興局 中島主査より、説明いただきたい。

■中島

- ・ 資料2-2に基づき説明する。※詳細説明は省略

■司会 一齋藤

- ・ 質問等あればお願いします。

■山口

- ・ 私は、あそこを直せる可能性のある者は、岡崎さんだけだと思っているが、岡崎さんと調整しているか。それから、あえて言わせていただければ、あの場所は私の考えの一つとしては、PDCAサイクルができなかった事例、“災害遺構”のような意味合いで、あの場所を残しておいてもいいのかなと思っている。

■中島

- ・ 岡崎さんとは、現時点ではざくっとした話しか出来ていないが、今後詰めていきたいと思う。

■山口

- ・ 承知した。

■司会 一齋藤

- ・ 他にあるか。ないようなので、次の議事に移る。

- ・ 議事 3、資料 3 について事務局より説明願う。

(3) 大雪山の保全ルールに関する一元的な情報発信について

…資料 3、資料 3 別紙に基づき、事務局より説明。

■事務局

- ・ 資料 3、別紙を併せて説明する。※詳細説明は省略
 - 大雪山で守るべき統一的なルールのうち「保全ルール」について、散在していた既存のルールを再整理し、宣言型、呼びかけ型、注意型、の 3 案を提示。
 - 大雪山国立公園連絡協議会ウェブサイトでの表示構造案について提示。

■司会 一齋藤

- ・ ご質問、ご意見等あればお願いします。

■横須賀

- ・ いろいろなルールがあっても当然と思うが、「やりましょう。」という表現は聞き飽きたので、もう少し良い表現がないかと思った。
- ・ また、ヒグマの件についてだが、全国でヒグマがいるのは北海道だけである。九州から来る方や東北から来る方に馴染みがあるのはツキノワグマであるが、ツキノワグマとヒグマとは大きさが全然違う。道外から来られる方は多大な恐怖感を持っておられる方もいる。ヒグマのルールに関して、ゴミを置いていかないとか。今現在エサを与える人はいないと思う。知床ではエサを与える人がいて困り切っているが、大雪山ではまさかそこまでやる人はいないだろう、と楽観的に考えている。ただ、例えば、おにぎりが余ったからそれを捨てるとか、そういうことは多々あるので、そういう、ゴミを捨てないといった基本的なルールの記載をもっと厚くして、初めて大雪山に来られる方が、ヒグマはどういう生物なんだろうということが分かるころまで（記載したほうがいい。また）、どういうことに気をつければいいのか、という具体的なことを、もっと長い文章で書いていただきたいと思う。

■事務局 一広野

- ・ ヒグマについてはおっしゃるとおり、強く提供していかなければいけない情報だと思う。ヒグマに関する情報は、安全登山に関する情報にも入っているし、ヒグマの生態に対してどう行動すべきかということで、保全ルールの部分でも関わるものでもあるし、個別情報として緊急的な出没情報などを重要なお知らせとして発信するものでもあると思う。そのため、どこか一つに区切ってしまうのではなく、あらゆる部分で発信していければと思う。

■横須賀

- ・ よろしくお願いしたい。

■山口

- ・ 前回は発言したが、まず、「マナー」と「ルール」の違いをはっきりすることと、それに対する表現方法をはっきりすること（が必要だと思う）。私は昔ルールとマナーについて勉強したことがあるが、「マナー」「モラル」「エチケット」という言葉は、同じ価値観のグループの人たちが、グループのなかで決めたことである。そして、「ルール」というのは、価値観が多様な中でもやってはいけないことを社会全体で決めたことである。もちろん社会全体というのは、日本国で決めたとか国際で決めたとか、大雪山地域で決めたとかは別として、価値観に関わりなくやってはいけない事を決めたものである。そうすると、表現方法としては、マナーに関しては「〇〇してはいけない、なぜならば・・・」という理由を説明する方法になると思う。ルールなら「〇〇してはいけません。自然公園法第●条で決められています。違反した人は罰金です。」と、ただお知らせすれば良い。「なぜならば・・・」と理由は書かなくてもいい。ルールは、もうやってはいけないものなので、それはここに決まっています、とお知らせすればいい。これが、昔私が習ったマナーとルールの違いであり、表現方法である。

■事務局 一広野

- ・ 前回マナーとルールの違いについて話があったので、今回は「ルール」という表現に統一した案とした。大雪山での使い方としては、禁止表現を強く出しすぎると、自発的な意識に繋がりにくいということがあるかとも思うので、こういった表現が一番伝わりやすいのか、ということを引き続き議論したい。

■司会 一齋藤

- ・ 他にあるか。もしオブザーバーからも質問等あればお受けする。

■公益社団法人 日本山岳会北海道支部 藤木氏（オブザーバー）※以後肩書き省略

- ・ 一般的なことかもしれないが、一つドローンに関して質問がある。報道機関だとか行政機関だとかが飛ばすことがあるかもしれないが、趣味でドローン飛ばすことは可能なのか。私自身、山で見たことはないが、青池で飛ばしている方を見て、うるさかったなあという印象。国立公園内はどのようなルールでやっているのか、参考までお聞きしたい。

■事務局 一広野

- ・ 自然公園上、ドローンを飛ばすこと自体に許可申請が必要になっているわけではないが、明らかに著しい迷惑になっている状況があれば、利用上の支障を解消する観点から行政指導をすること等ができる。他にも、資料に書いてあるようなことに配慮してもらう指導は、都度お伝えしている。また、土地所有者には連絡して必要な手続きがあればするようとお伝えしているところ。

■藤木（オブザーバー）

- ・ 森林管理署や道有林を管理されてる方が申請内容を吟味して問題なければ、一般の場合もドロ

ーンを飛ばせるのか。

■事務局 一広野

- ・ 実際取材目的で使用されている場合もある。ただ、高原温泉のように、ヒグマが非常に多く生息していて、他の利用者にドローンを介して影響を及ぼす可能性が高い場所に関しては、利用を自粛していただくよう指導をしている場合もある。

■北海道大学大学院農学研究院 愛甲氏

- ・ 保全のルールについて整理するという事は、前から混乱があったことなので良いことだと思うが、一方で、これが、既存の登山道の検討やトイレの検討ともきちんとリンクしている必要があると思う。それから、こういった議論はこれまでも時々話題にはなっていたかと思うが、最初の登山道管理水準を作った際にも、確か、登山のあり方について整理して後ろの方に添付した記憶がある。ただ、結局そのときに作ったものが後に残らないとか、その時々で新しいものが出来てしまうということが繰り返されて、今の掲示板だとかパンフレットだとか、いろいろ広報する際の表記の乱れ、バラバラな表現になってしまったのかと思う。このあたりで一度バシッと決めて、それを継続していく努力を、役所の間でしていただかないといけない。役所の間でもかなりブレたりしているのではないかと思う。もしこれを本気でやるなら結構大変な作業になるはずであるが、今回ルールを作ったからといって、“大連協ではこのルールでやっているが他のところではこういう表現をしている”、“大雪山現場に行くともた違う表現がバラバラとある”、などということになると問題であるので、これを整理していただいた機会に、今後どうやって継続していくのかも検討していただければと思う。また既存の掲示板などの表記も、更新の際にはきちんと（統一的な表現で）更新していただければと思う。

■事務局 一広野

- ・ ご指摘おっしゃるとおりかと思う。保全ルールに関しては、1回の会議で決定するという事は難しいと思っており、今後の部会等で今回出席していない構成員の皆さまのご意見も含め検討し、なんとか形にしていきたいと思う。また、継続して統一的なものを発信していくのも大事な事かと思うので、そのように実施できたらと思う。

■大雪山倶楽部 森田副代表 ※以後肩書き省略

- ・ あくまでも、この部会というのは「登山道維持管理部会」である。例えば大連協の総会で、登山道をこうしてほしいとか、話はあるのか。総会での議論はもしかしたら公開されているのかもしれないが、下の部会で何も共有されておらず状況が分からない。総会で、方向性だとか方針を話すかと思うが、おそらく環境省は環境保全の立場で登山道管理の話をするだろうし、自治体はそれだけでなく地域振興の観点での立場で議論をしているかと思う。例えば、極端な話であるが、一年間で1人しか来ない登山道と1万人が来る登山道とでは整備の仕方が違ってくと思う。総会として、登山道に関してどんな考えを持っているのか知りたい。また、地域振興として、高原温泉のように大きく広報を打ち出すので利用者が増えるかもしれない、とい

うことがあれば、整備の方法だとか時間だとか、もっと言うと投資の仕方も変わってくるのではないかと思う。

- ・ もう一つ。環境省で登山者カウンターを設置してネットにも出ていると思うが、その数字は分析されていないのではないかと思う。その数字の分析で、例えば黒岳-旭岳を縦走した利用人数の推定などは可能なのではないか。そうしないと、登山道整備といってもどの程度の整備が必要なのかが分からないのではないか。交通量調査とは異なると思うし、100人しか通らないところと1,000人通るところの違いはどうかという難しいかとも思うが、少なくともそのあたりの登山道の使用状況が分からない段階では、技術屋だけが素晴らしいものだと思って作ったものが現実的にはそこまで必要なかったという整備がたくさんあったりする。
- ・ このあたりも含めて、まず総会の議論がどうなのか、登山道の利用方法をどう考えているのか、教えていただきたい。また、環境省はカウンターから分析してどの地域にどの程度入っているのか、今後教えていただきたい。私がこの部会に参加してからずっと感じていることである。

■事務局 一齋藤

- ・ 当然、本部会は親部会と表裏一体であるため、それらの情報は共有していかなければいけないというご指摘はおっしゃるとおりかと思う。また、たしかに全ての登山口ではないものの、環境省で設置しているカウンターの数字についても解析等を進めて、その数字から何が考えられるのかどう使えるのかといったことも併せて考えていきたい。

■藤

- ・ (ルールに関して、) 旭岳の話だが、けっこう法律を勉強している登山者の方がいて、聞いた話だと、「登山道外を歩くのは法律的に違反ではなく植生を傷つけてしまうと罰金」ということを知って、つまり、登山道外を歩かないでという指示には強制力がないと知って、反論してくる登山者がいたと聞いた。今回このルール5つあると思うが、どの程度の強制力があるのかということが気になった。いかがか。

■事務局 一広野

- ・ 今回決めるルールに強制力があるかということそうではない。ただ、このルールは大連協全体で決めたもので構成員が皆同じ事を言っている、というところが大事な事だと思う。一機関だけではなくて、複数団体が同じルールを発信していくことに大きな意味があると思っている。

■渡邊

- ・ 森田さんと藤木さんの意見に関連するが、まず、登山者数のデータをある程度持っているけれど解析をしていないという話について、これは本来非常に大事な事かと思っている。現在、ビジョンがあって維持管理の仕方があってグレードがあるが、実際にそのグレードのルートを利用している方の数は、ルートによって違う。極端な言い方をすれば、(グレードを利用して)利用者数を制限したり、逆にもっと利用してもらおうといった誘導もあり得る話と思う。本

来であれば、これはビジョンとの間で議論されて、維持管理をどうしていくかが決まってくるのだと思う。どこが何をすればいいのかということは分からないが、PDCAサイクルを回していくだけではなくて、どこかで議論をしていく必要があるなと思っている。

- ・ また藤木さんの発言についてであるが、ドローンに関する話で、YouTube を見ていると、おそらく許可を取っているのではないかという大雪山の動画がかなり挙がっている。ドローンの使用はダメなんですよということを、今後、環境省としてもっと強く出していただきたいと思う。

■事務局 一広野

- ・ 策定前ではあるが、管理運営計画にドローン記載も含まれている。こうしたことで対応していきたいと思う。

■司会 一齋藤

- ・ 他にあるか。今回、3つの問いかけ方で提案しているが、これに関して具体的なご意見をいただきたい。

■山口

- ・ 先ほど言ったが、ルールに関しては「やめましょう」ではなく、「こういう風に決まっている」という表現にした方が良いと思う。

■司会 一齋藤

- ・ ご意見としては、「注意型」に近いのかなと思うがいかがか。

■山口

- ・ そのとおり、ただ、私が勉強したのはアメリカ型で脅迫的・命令的表現ではあるので、日本的な表現にしてもいいかとは思う。

■佐久間

- ・ 私も山口さんの意見に賛同する。今回日本語版しかないが、今後英語版を作るとしたら、ルール、となっていたらもう命令するしかないと思う。例えば「登山道外を歩くな。違反したら〇〇法で…」 「テントを指定地以外で張ったら…」 「携帯トイレを使わずに立ちションしたら…」 など。身も蓋もないかもしれないが、そういった形で論拠を書いたほうが分かりやすいのではないかな。

■事務局 一広野

- ・ もちろんそういう方法もあるかと思うが、大雪山ビジョンでは、みんなで協力してみんなの賛同のもと良い国立公園を作るという考えになっているが、そのあたりの整合はどうか。

■佐久間

- ・ その「みんな」の中に、全世界の人類が含まれるのか。例えば、今外国からの利用者が増えている。国立公園の運営の大部分は国民の納税でまかなわれているかと思うが、タダ乗りの方（非納税者）を「みんな」の中に入れてしまって良いのか。また、上川町内の方だったらタダで入れるけれども、それ以外は千円/日、外国人は1万円/日とか。差別化を図るという考えもあるのではないかと。海外の国立公園では確かそのような運用をしているところもあったかと思う。
- ・ もちろん、日本人だからと言って全ての人のマナーが良いと言うわけではないと思うし、「みんな」で作る国立公園というのも良い考え方だと思うが、先ほど藤さんが言われたように、確信犯的な方もいるので、私は厳しめの表現が良いのではないかと思う。

■横須賀

- ・ ルールを書くときの表現のことではなく、番外編の意見である。というのは、以前、登山道審議会の審議議員となって研究者と行政との議論で聞いた話である。私はガイドでもあるし、登山道外を歩かない、というルールが当然のことだと思っていた。しかし、ある研究者が、登山道を歩くとそこが掘れてしまうから、他の場所を歩いても良いのではないかと、ということをおっしゃっていた。実は、利用者人数の少ないところでは、登山道外を歩くことが必要になってくることがある、ということ、皆さんにも覚えておいてほしいと思う。

■愛甲

- ・ ルールについてどういう言い方がいいかの話について発言する。山のトイレを考える会でも宣言型や呼びかけ型を使ったりしているが、その時の考え方について紹介する。必ずしも命令口調が良いわけではなく、こうした表現についての研究は、大分が進んでいて、ある程度皆さんが共通している場合には、「宣言型」、この認識が共有されていないもの、原因が不確かなものは「呼びかけ型」、分かっているけど従わない人がいる場合は、やはり「注意型」がよいと言われている。その起きている問題が周知の事実なのか、それに対して合意がとれる状況が整っているのかという点も、ルール等を示す際には確認が必要。何でもかんでも宣言型が言いわけでもないし、何でもかんでも呼びかけ型が良いわけでもない。問題内容によって切り替えるべきではないかと思う。
- ・ 外国人の話もあったが、例えば携帯トイレは、(外国に比べると)この程度の山で携帯トイレが必要であるということが許容できない方もいると思うので、そういう場合に、大雪山ではこうだから、という情報提供とセットかと思う。このあたりは戦略を練ることが大事になってくると思う。
- ・ 藤さんが言われたような方もいるかと思うので、キチンと整理しておくことが必要かと思うし、佐久間さんの例のように、登山道から踏み出して植生を踏むこと等についても厳密に言えば法律違反かもしれないが、それが不作為の行為であった場合、本当に法的に罰せられるかどうかという現実的には難しいかと思うので、その辺りは冷静に考えていければいいのかなと思う。

■森田

- ・ 表現方法について、要は、相手にやってもらえるかどうか、という事かと思う。外国人の話もあったが、ここは日本なので、日本的な表現で良いのかなと思う。私も現職の経験上の話であるが、(不適切な行為を) やった人に関して「法律の何条で罰則」などと言っても、だれも「ハイそうですか」とは言わない。私も現場で注意したりするが、例えば、ある時登山道外から「クマがいます」と言って逃げてきた方がいたが、そもそもなぜあなたはそんなところに入っていたのか?と問いかける。現場では法律を振りかざすのではなく、いかに登山者に正しい行動をしてもらうか、ということを中心に置いて注意している。言い方は悪いが、(不適切な行為を) やる人は、どんな対策をしたとしてもやる。私の考えであるが、どうしても行くことを聞かない人に対しては、写真を撮って管理者に報告しますけどいいですか、というようなことまで言ってもいいと思っている。今までそこまでやったことはないが、とにかく、法律を言うのではなく、そこにいる人にどういう行動をしてもらいたいかなので、日本人向けは日本的で良いと思う。外国版は外国人向けの表現方法にすればいいと思う。

■司会 一齋藤

- ・ 現時点では外国人に特化したルールを決める予定はないが、おっしゃるとおり、外国人向けであれば、日本人向けと切り分けて考えていければと思う。

■藤

- ・ 別紙について、例えば、「登山道を傷つけません」のルールの部分に、登山道が荒廃している様子などが分かるページに飛ぶリンクを貼ってはどうか。そうすれば、リンク先を見た方の中には、理由を見るとルールを守る気になるのではないかと思った。また宣伝にもなると思う。

■司会 一齋藤

- ・ 先ほどの愛甲先生から指摘があった情報発信とセットで、とのご指摘と同じ観点かと思う。その他あるか。ないようなので、一旦休憩とする。

— 休憩 —

3. 報告事項

各団体からの活動状予定について

…資料4-1、4-2、4-3に基づき、事務局、十勝総合振興局、鹿追町から説明。

■事務局 一齋藤

- ・ まず、資料4-1について、事務局より説明する。※詳細説明は省略
 - 中岳裾合平千道路(歩道)改修工事について
 - 大雪山国立公園大雪山縦走線道路(歩道)保全修復工事について

■事務局 ー山田

- ・ 今回、「大雪山国立公園大雪山縦走線道路（歩道）保全修復工事」の標識の表示項目やデザイン、距離情報について特にご意見いただきたい。
- ・ 資料4-1の3ページ目、別紙2-①の図16/25、別紙2-②の図22/34を参照いただきたい。
※詳細説明は省略

■山口

- ・ 歩道の設計については、業者及び監督者は、技術指針をある程度理解している方なのか。
- ・ 標識について、岡崎さんが作った振興局関係の標識には「時間」を入れた方が良いのではという議論があったが、その辺はいかがか。

■事務局 ー山田

- ・ 施工者に関しては、大雪山の技術指針を十分理解するということとは、発注者側としても指示・指導していくことになるため、技術指針を理解した方が従事するというご認識で良い。
- ・ 時間に関して、振興局関係の標識には時間表記が入ったことについては把握している。もし入れた方が良いということであれば、その意見を検討することになるが、そのような意見であるか。

■山口

- ・ 私としては、時間表記は入れない方がいいと思っている。標識は事実のみを記載するのが基本だと思っている。

■事務局 ー山田

- ・ 承知した。時間に関して他の皆さんの意見はどうか。

■佐久間

- ・ 時間を入れることに関して、前回は反対したが、今回も反対したい。

■山のトイレを考える会 仲俣事務局長 ※以後肩書き省略

- ・ 決まったことなので、難しいかもしれないが、最近思ったことである。山のトイレを考える会でトイレマップを作っているが、今後紙をなくしていきたいとも考えている。そこで、標識のどこかにQRコードか何かでトイレ情報が入れられないかと思った。

■愛甲

- ・ 先ほどのルールの話と同じ事であると思うが、多少のバリエーションはあったとしても、一度決めたことを変えると、結局異なるタイプの標識が乱立するかと思う。評価は必要だと思うが、基本的なデザインは踏襲されるべきだと思う。一方で、仲俣さんのようなトイレの表示や時間の表示など、追記したいという意見が多かった場合には検討すべきかと思うので、その場

合はやはり評価が必要だと思う。追記してみてどうだったのか、構造上の問題も含めてどうだったのか、標識についてもある程度の方針を決めて更新していただければと思う。

■渡邊

- ・ 私も時間については、入れない方が良いと思っている。時間は目安でしかなく人によってかなり異なる。外国人は、日本の地図を見てなんでこんなにかかるのか驚くことも多い。事故があったときに、それを根拠に何か言われると管理される方は大変だということもある。
- ・ QRコードに関しては、後で貼り付けるということもありかと思う。QRコードのスペースは確保しておくといいのかなと思う。また例えばアクセス先は「準備中」でも良いので、QRコードとサイトを先に作ってしまい、付けてしまうというのも良いのではと思う。

■森田

- ・ 非常に単純な話で申し訳ないが、距離はどうやって測ったのか。
- ・ また、大雪山の登山道全体で一連番号をつける方法もありなのかなと思った。管理する方も管理しやすいのかと思ったがいかがか。
- ・ また、新しく建てた標識について、ほとんど全てクマにかじられているかと思うが、その原因と対策について考えられているのか、お聞きしたい。

■事務局 一山田

- ・ 距離の算出方法について、手元の情報では不明。申し訳ないが、確認して構成員に情報共有する。
- ・ 環境省以外が執行している路線もあるので、大雪山の全体でということであれば、連携が必要かと思う。個人的に知る限り、阿蘇地域の山で、遭難対策協議会が遭難対策の観点で、そうしたポイント番号が付けられていたかと思う。大雪山でどういう目的でつけるのかという議論は必要かと思うが、今後の論点の一つとして検討していければと思う。
- ・ 標識がクマにかじられてしまう現象について、事務局としても、原因調査をしきれていない。一説には、塗料が原因ではと言われているが、確かな情報ではない。逆に、どういう調査をしたらいいかなど、どなたか知見をお持ちであれば伺いたい。その他、対策案について、札幌の整備担当とも相談したい。

■NPO アース・ウィンド 関口副代表

- ・ まず、標識の「時間」についてであるが、登山者の中にはトレラン系の方もいるので、時間が混乱してくる。時間を道標に入れる意味合いがなくなってきているのかと思う。
- ・ また、道標がクマに壊される件だが、どうも道標に塗る「ニス」がクマを誘引しているのでは、というのを聞いたことがある。また、樹脂コーティングしている道標があるが、これは非常に長持ちする。場合によっては5～10年経っても新品同様である例もある。

■藤

- ・ 「Junction」のスペルが所々間違っているので、修正いただければと思う。
- ・ また、私も時間の表示はない方がいいと思うが、トイレの情報の追加はいいと思う。レイアウト例を見ると、グレードの下に少しスペースがあるので、見つらいかもしれないが、こうした場所に付け足すということができるのではと思った。

■藤木（オブザーバー）

- ・ 新しい標識が出来ることは良いことかと思うが、気になるのは、登山道の上に、過去の標識が何も文字が見えない状態で残っていることがある。ある意味でここが登山道だと分かるので良いのかもしれないが、これはわざと残しているのか。それともお金がかかるから撤去できていないのか。また、古い注意標識やベンチなども倒れてそのままになっている場所がかなりあると思うが、撤去するのか。管理者としてどのようにお考えか。

■中島

- ・ 管理者の北海道振興局である。お恥ずかしい話だが、ご指摘のあったボロボロの標識等の構造物は、ほぼ北海道が過去に整備したものの残骸かと思う。もちろん撤去すべきなので、順次撤去していきたいと思うが、時間はかかるかと思う。

■藤木（オブザーバー）

- ・ 霧が濃い時など、ある意味で目印にもなっている場合もあるかと思う。

■中島

- ・ 大雪山に来られるほとんどの方は、よく思われない状況かと思うので対処していきたいと思う。

■畠山

- ・ 時間表記に一言申し上げたい。以前北海道で整備した看板に時間を入れた経緯としては、あまり山に登り慣れてない方の意見が多かったとお聞きしている。赤岳ー銀仙台、大雪高原温泉ではマイカー規制を実施している。最終バスに間に合うように下りてくる必要がある。時間表記を信頼しすぎた場合、結果的に「最終バスに間に合わなかった、どうしてくれるんだ」という声が懸念される。そのような事情もあるので、上川町としては、この場所の標識に時間を入れることについて慎重になってほしいということで意見させていただく。

■事務局 ー山田

- ・ 今回、欠席の方もおられ、細かいところの確認も含まれるので、この後7/7（金）までご意見受け付けたいと思う。欠席の方でご意見があれば、それを含めて検討し、なければこの場でいただいた意見で検討を進めていくのでご承知おきいただきたい。

■愛甲

- ・ 今の説明について、気になったので一言申し上げたい。今回出た意見全てを盛り込めるのか聞いてて分からなかったところではあるが、時々思うのは、最終的にどうなったのかが共有されないのが良くないことだなと思う。「この意見を取り入れた結果、最終的にこの案でいきます。」というのが共有されないと、結局どこをどう変えたのか分からないまま進めることになり、せっかく意見を言って「これで行きましょう」と決めたものが踏襲されないままなり、なんで時間をつけたのだっけ、というような状況になりかねない。決まった時点で、「これで行きます」というものを、再度皆さんに共有するという手続きをきちんと踏んでいただきたい。

■事務局 一山田

- ・ 承知した。いただいたご意見全て反映できるか分からないところであり、最終的に決まった時点で、皆さんに改めて共有させていただく。

■大雪山国立公園パークボランティア連絡会 垣内会長 ※以後肩書き省略

- ・ 誘導標識について一つ確認したい。大雪山にある古い標識全部について、将来的にこのタイプに変えていくということか。

■事務局 一山田

- ・ 今回ご説明した工事予定の5基について、更新するものである。

■垣内

- ・ 承知した。一つ提案であるが、今ある古い誘導標識が全体としてどういう状態になっているかについて、把握しているかお聞きしたい。他のところの状態が把握できていないのであれば、今後山登る方に写真等を撮ってきてもらえれば、参考になるのではと思った。

■事務局 一広野

- ・ 環境省でも巡視等で歩いた歩道沿いの標識の状態は把握しているところである。

■渡邊

- ・ 所長が答えたのでいいが、実は今年、(自分のゼミの学生が) 修士論文で大雪山の標識についての調査を始めており、標識を全て写真に撮っている。調査した標識がどこのものか分からないということで、今後各機関に問い合わせる予定であった。また、調査結果をまとめたものについても、年度末に皆さんに共有したいと思っている。情報提供まで。

■司会 一齋藤

- ・ 他にあるか。なければ、資料4-2について十勝総合振興局様から、資料4-3について鹿追町様から情報いただいているので、ご説明お願いしたい。

・

■北海道十勝総合振興局 村上主事

- ・ 資料4-2の、ヤンベタツプ五色岳線について情報提供する。中身については技術検討会等でご意見ご指導いただけたらと思う。※詳細説明は省略

■鹿追町 常清係長

- ・ 資料4-3の、然別自然休養林保護管理協議会の事業計画について情報提供する。※詳細説明は省略

■事務局 一福濱

- ・ 環境省より1つ情報提供する。登山道に関することであるが、望岳台から美瑛岳に向かう望岳台歩道について、北向沢というところがある。平成23年の集中豪雨で渡渉点が崩落し、現在はしごやロープが設置されているところ。供用から年数が経過しているところであるが、河床がさらに掘れてきたところもあり、今後どうしていくかという課題がある。今年中に、美瑛町さんを始め関係機関の方と現地確認をして、今後の維持管理体制を検討していきたいと思っている。なお、現在本路線は未執行路線（管理者不在の路線）となっている。資料なく口頭で恐縮だが、以上が情報提供の内容である。

■司会 一齋藤

- ・ 他にあるか。

■森田

- ・ いくつか情報がある。今年先週、十勝岳の新得コースを登ったが、おそらく大雪山でもっとも原始的な歩道になっていた。個人的にはこのままでいいのだろうか、という疑問が湧いた。特に上部ではハイマツがすごくて、数歩歩く度にザックに引っかかるという状況。過去の資料で登山ガイドを見ると、登頂まで4時間半と書いてある。実際には、雪渓を利用して直登しても6時間かかる。また、森林限界を超えて山頂まで見渡せるような場所でも、歩道を見つけるのが難しい状況。登る人が少ないから遭難者がいないだけであって、人が多ければ確実に遭難者が発生すると思う。
- ・ また、この場所に最近、バックカントリーが多く入っている。最初の沢までスキーを担いで入って登り、雪渓を滑っているようだ。5月～6月中旬くらいまで。また、先ほど言ったように登山道のハイマツが酷いので、かなり切られている状況である。ネットで調べると切った方のハンドルネームが出てくるが、協力者を呼びかけているような書き方をしている。酷いのが、切ったハイマツの枝を登山道上に放置しているので、非常に歩きにくい。かなり太いハイマツも切られており、これは問題なのではと思っている。
- ・ また、資料の「登山道の保全対策ランク」の図のなかで、台地ゲートが波線となっているが、ここは個人的には非常に良いルートであると思っている。美瑛町のキャンプ場からのルートは通そうと思えば通せると思う。そういう意味では森林管理署は、美瑛町の地域振興の観点から見て、森林管理署がなんとか通行出来るようにしていただけないかと思っている。

- ・ それから、ニペソツに抜けるルートについて、以前のルートは林道が完全に崩壊して行けない状態であるが、緑色の実線で行けるように見えるが、行けるのか。
- ・ もう一つ、幌加ルート（幌加温泉登山口に続く道）が非適用になっているが、今一般ルートになっているはずである。
- ・ 台地ゲートのところは回答を求めないが、十勝岳の新得ルートのこととニペソツのルートはどうなっているのか、お伺いしたい。

■事務局 一齋藤

- ・ 新得コースについては、登山道の執行者（管理者）がいない状況にあるので、誰かが藪払い等しているわけではない。冬～新春にどなたかが枝払いをしまっている状況については我々も把握しているので、どういった対策ができるのか考えていきたい。
- ・ 台地ゲートに続く道については、私も個人的には非常に良いルートであると思っているが、長い間使われていないということもあり、林道が復旧しうるのかどうかというのは、調整が必要かなと思う。
- ・ ニペソツの十六ノ沢コース登山口については、当時通れるということで表示されているものである。このコースについては、橋が落ちて道が完全に崩壊しているので、復旧は難しいのかなと考えるところ。そのため、今後この図を作り直す際は、幌加温泉側のルートで作り直すしかないと思っている。

■渡邊

- ・ 資料なく口頭での情報提供である。北大の研究で、登山道崩壊箇所について、iPhoneを使った3次元スキャンデータやビデオデータの蓄積ができるようなシステム構築を考えている。岡崎氏と調整させてもらっているところであるが、皆さんには8月目処でご紹介させてもらえたらと思っている。

■上川中部森林管理署 阿部総括森林整備官

- ・ 白金及び朗根内地区から台地林道入口ゲートへ至る上俵真布林道については、少なくとも5年は（林道沿線に）伐採計画がないので、森林管理署として修繕予定はありません。
- ・ また、上土幌側についても現在崩壊して通行止めとなっているということだが、ここについても、（国有林の考え方としては、）森林整備の計画がないということで、つまり林道整備の予算がない、ということをご理解いただきたい。

■中島

- ・ 上川総合振興局より、資料なく口頭での情報提供である。今年度旭岳の裾合平で、6/30までの期限でクラウドファンディングをやらせていただいている。現在120万が集まっているが、目標額200万には及んでいない。皆さんにおかれましては、もし周知が可能であればお願いしたい。

■司会 一齋藤

- ・ 他にあるか。なければ、議事4のその他へ進む。

4. その他

■司会・事務局 一齋藤

- ・ 事務局としては特に議題は予定していないが、本会全体を通して、皆さまから何かあればお願いしたい。
- ・ ないようなので、以上をもって閉会とする。

5. 閉会

<部会后、7/7（金）までにあった標識についての意見>

■合同会社北海道山岳整備／一般社団法人大雪山・山守隊 岡崎代表

- ・ 時間の標記を入れるか入れないかの議論について、以前の部会でも伝えているが、イラストレーターの鈴木みきさんがみきさんの読者（登山初心者や登山5年以内の人が多い）に対して行ったアンケート（800人からの回答）では「時間表記のみでよい、時間と距離表記併用がよい」が約8割となっている。もちろんその時も部会の人からはほぼ全員時間表記は必要ないと意見もらった。しかし、標識の内容を必要な人は初心者や初めて来た人なので、私たち玄人の意見ではないはず。白雲小屋の管理人も登山者に「緑岳山頂まで何kmですか？」と聞かれることはなく「何分で行けますか？」と聞かれる。距離で聞かれることは皆無である。私個人としては時間表記よりも距離のほうが理解しやすいが、現場感覚として、時間表記は必要だと思っている。これに関して、登山初心者に聞いてみてはどうか。
- ・ クレームにつながる・・・という話について、現場人は持つてはならない感覚だと思っている。「クレームがあるからやらない」というのは全ての行動や表現が消極的になる一因となる。この意見は論外だと思う。また、マイカー規制では高原温泉が、一番クレームが来る場所だと思うが、「時間が分かって良かった」という意見はあったが、クレームは全くない。
- ・ 管理番号の一連の番号を振ることについて、管理番号は有効だと思うが、登山者にとっては不必要な番号である。番号ではなく、その場所の「地名」を表記し、地図上で共有することで解決すると思う。そういった考えから、北海道の新しいプレートにはすべてに「現場地名」を表記しているところ。安全管理者との情報共有があれば改善されると思っている。
- ・ なお、改修した北海道標識に関して、文字表記の改善やプレートのバージョンアップを考えている。一枚数千円で作成できるため、問題あればすぐ交換できる。今期は、3枚程度を交換予定である。